

「地域の論点」 論点8 若者インタビュー企画
高校生のやりたい想いを実現する
～「放課後の居場所」というコミュニティの可能性～

学生団体「Fourth Place」

代表 中澤 貫太

今回のインタビューは、高校生や大学生などの若い世代が、既存の施設ではなく、新たな居場所を生み出すとともに、学校や学年の枠を超えて積極的に地域に飛び込んでたくさん
の取り組みを実施している学生団体「Fourth Place」代表の中澤貫太さん（高校2年生）に
お話を伺います。中澤さんたちメンバーは、イベントの企画運営や地域のボランティアコー
ディネーターなど、高校生・大学生が他校の学生や地域と交流できる環境づくりに取り組んで
います。

Fourth Place（フォースプレイス）について教えてください。

フォースプレイスは、2019年6月に高校生・大学生18名のメンバーで立ち上げた学生
団体です。まちづくりなどの地域活動に興味があり、学校や学年の枠に捉われない活動がし
たいと思い設立しました。私たちの世代では「まちづくり」と聞くと難しいものと感じる人
が多くいました。しかし、私は「まちづくり」の視点で高校生としてできることは必ずある
はずだと思い、高校生にアンケートを取ってみました。すると、回答の多くに「居場所」が
欲しいとありました。私たち若い世代は街なかに若い世代で集まること出来る「居場所」
を求めているのです。

これで、私たちがまず始める活動内容が決まりました。自宅や学校、カフェでもない、高
校生・大学生など若い世代のための「第4の場所」をつくることにしました。この私たち
の「第4の場所」への想いを込めて団体名（プロジェクト名）を「Fourth Place」としまし
た。東京に「b-lab¹（ビーラボ）」という、いつでもなんでも挑戦できる中高生の秘密基地
のような場所があります。放課後の居場所として、こんな場所をつくれればいいなと思っ
ています。

このような活動を行うようになったきっかけを教えてください。

自分自身がこうした活動を行うようになったきっかけは、高校1年生の時に長野青年会
議所の公開例会に参加したことでした。地域に根差しながら将来を見据えた想いやお話を
聞いて単純にかっこいいと思いました。そして、同じ高校生でありながら長野青年会議所理
事長との会談がチラシに取り上げられていた方を見て、自分もやってみたくと学外活動に

¹「b-lab（ビーラボ）」とは、2015年4月にオープンした教育センター（複合施設）の中にあり、認定
NPO法人カタリバが運営する文京区内初の中高生向け施設を指す。詳細はURLより。<http://b-lab.tokyo/about>

関心を持つようになりました。そうした時に、フォースプレイスを設立するきっかけにもなった「ユースリーチ」を知りました。ユースリーチは、「自己実現×仲間づくり×社会課題解決」をコンセプトに長野市の高校生・大学生が学校の枠を超えてアクションプランを作成し、自ら実践していく取り組みです。これまでに地域活性化プロジェクト、高校生の居場所づくり、ゴミ拾いイベント、気候変動アクションなど、学生たちがイキイキと地域のために行動しています。私はこの「仲間とアイデアを出し合いながら新しい企画を創出する」というところに大きな魅力を感じて参加しました。



↑ ユースリーチの目指すもの（ユースリーチのホームページより）

実際の活動について詳しく聞かせてください。

①放課後の居場所づくり

若い世代が学校の外に飛び出して地域活動やまちづくりを実施するために、日常的な交流の場を長野市新田町の空きテナントに設けました。空き店舗になっているところを中心に探しましたが、所有者との交渉に手間取ったり、立地の問題も出てきたりとなかなか苦労しました。今後は、活動拠点としてはもちろんのこと、高校生・大学生であれば誰でも気軽に立ち寄れる放課後の居場所として機能させていきたいと思っています。

②高校生未来サミット信州

先ほどお話したとおり、放課後の居場所を確保するのに少し時間がかかってしまいました。しかし、活動拠点が無いからと言って活動自体が出来ていなければ本末転倒です。そこで、居場所づくりと並行して場所がなくてもできるイベントを企画していきました。その最初のイベントが『高校生未来サミット信州』です。高校生・大学生を対象に地域で活躍するゲストから活動事例を聞いたのち、参加者同士で地域課題について話し合い、解決へのアイデアや自分たちが行うべきアクションについて考えてもらいました。多くのイベントは主催者や参加対象者が社会人なので、高校生や大学生には敷居が高いと感じてしまいますが、テーマそのものに関心がないわけではないんです。高校生が企画している、友達が関わっているなど、身近に感じる事ができれば来てもらえるということをこのイベントで実感しました。

③高大生災害情報共有会議

「高校生未来サミット信州」など、高校生・大学生を集めたイベントを続けていましたが、2019年10月に台風19号災害による水害が長野市をはじめ周辺地域で発生し、すべての活動はストップしました。しかし、私は自分が今できることをという思いから、いち早く災害ボランティアへ向かいました。目の前に広がる想像を絶する被害を見て声も出ませんでした。その後は、各支援団体やボランティアが現地の支援状況や課題について協議する情報共有会議に参加しました。週1回のペースで開催される会議には毎回50名以上の方々が参加していましたが、高校生は私だけでした。

会議で高校生・大学生も協力してもらえないかとお話をいただきましたが、私たちとしても関わりたいけどもどのように関わって良いか、どんな支援が求められていて、自分たちに何ができるのかも想像できませんでした。そこで、このような情報共有会議を高校生・大学生向けにやってみることから始めようと思いました。

2019年11月中旬にユースリーチの仲間たちとともに「高大生災害共有会議」を開催し、被災地支援に携わる自治体や青年会議所の方々とディスカッションを続けながら、自分たちには何ができるのかを考えました。こうした機会をきっかけとして、被災地で暮らす子どもたちの学習支援ボランティアやクリスマスに被災地へ手作りクッキーを届ける取り組み、汚れてしまった写真の洗浄など、若い世代の発想を現場に持っていくことで数々の活動が生まれました。

④スタテレ²

2019年10月に台風水害が発生し、2020年には新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校が一斉休校となり、全国各地

² オンライン自習室「スタテレ」ホームページ参照。
https://peraichi.com/landing_pages/view/sutatere0414/

で学校再開の目処が立たない状況が長く続きました。同時に外出の自粛、大人数で集まる機会の自粛なども始まり、多くの高校生は家庭で過ごす時間が増えていきました。そうした状況下でも私たち高校生は自分たちで学習を進めていかなければなりません。いつもは塾や図書館で自習しているという方も多いと思いますが、コロナ禍では、それらの場所に行くのにもリスクが伴います。しかし、長時間誰とも会話せず、一人で勉強し続けるのはそう簡単なことではありませんし、気が滅入ってしまいます。そこで、フォースプレイスでは、「勉強」を通じて全国の高校生と会話し、励まし合い、繋がることのできる居場所を提供したいと考えました。そんな思いから始まった「高校生による高校生のためのオンライン自習室」プロジェクトです。

一日のスケジュールは、参加するみんなと考えてみんなで組んでいきます。まずは「おはよう！」の挨拶から一日をスタートさせます。充実した一日を過ごすため、一日の目標を決め、共有します。参加者みんなで決めた時間割をもとに、学校の自習時間ほどガチガチではないですが、みんな集中して勉強します。休憩時間には勉強法を教え合ったり、ラジオ体操をしたりとさまざまです。途中参加や途中退室も認めています。カメラオフでの参加も歓迎で自由なスタイルで一日過ごします。そして、一日の最後には立てた目標を振り返ります。雑談の中で今日はどんな一日だったのか、目標は達成できたのか、どこが出来てどこが出来なかったのか共有し、また明日を充実させる方策を考えます。

⑤活動費募金

活動費の捻出のためにたくさんの人たちに直接お会いして募金のお願いをしてきました。そうした中で、長野駅前の南石堂町商店街振興組合さんが私たちフォースプレイスの活動にご理解と関心をいただき、商店街の店舗などに募金箱を3つ置いてくださいました。本当にお店の皆さん、来街者の皆さんのお気持ちが嬉しかったです。大切に使用してもらいます。

今後やりたいことや目標について教えてください。

私たち設立メンバーが抜けた時、残ったメンバーにはやりたいことをやってもらいたいと思います。取り組みの継続は大事ですが、その時々によって環境や課題なども変わってきますので、その時に「やりたい！やるべきだ！」と思ったことに突き進んで欲しいです。

私も2021年8月になれば本格的に受験勉強を始めるために7月末日でこの活動からは引退することを決めています。残された時間はわずかですが、フォースプレイスの継続性を担保できるように、これまでもいろんな高大学生を巻き込んできましたし、これからもどんどん巻き込んでいきたいと思っています。こうした活動をしているとよく「意識高い系」と呼ばれたりもしますが、「意識高い系」でない人たちにも積極的に声を掛けていきたいと思っています。

また、フォースプレイスではないですが、長野県内の高校生有志で「晴れプロ実行委員会」

を結成しました。これは、コロナ禍で大会が中止となった文化系部活に発表の場を提供し、晴れ舞台でこれまでの努力をパフォーマンスして欲しいというものです。始まりは高校野球など運動部では代替大会が開催されましたが、文化系の部活動は発表の場がなくなっていると知り、行動に移したものです。地元プロスポーツチームに、試合開始前に高校生がパフォーマンスする場を作れないかと交渉しました。2021年3～6月には、信州ブレイブウォリアーズとサッカーJ3長野パルセイロのホーム戦で出演することが決まりました。今後県内各校の部活動に声を掛けていくつもりです。

<今後の「晴れプロ」の日程>

★長野西高等学校バトン班×信州ブレイブウォリアーズ

日時 3月24日(水)18:00～ 場所 ホワイトリング

★長野商業高等学校チアリーディング部×信州ブレイブウォリアーズ

日時 3月24日(水)20:00～ 場所 ホワイトリング

★長野高校ダンス班×信州ブレイブウォリアーズ

日時 3月31日(水)18:00～ 場所 ホワイトリング

★その他

日時 4月から6月の試合開始前時間 場所 長野Uスタジアム

対象 高校生(部活動、社会体育、習い事)

吹奏楽、軽音楽、ダンス、初動、演劇、合唱、管弦楽、バトンなど随時募集中です。

↓晴れプロ チラシ

晴れプロ
HARE-PRO
晴れの舞台をプロデュース

本気のパフォーマンス届けたい!!

人に感動を届ける喜びや成果を発表する楽しさを
再び感じられる「場所」を作りたい。

- 長野県長野高等学校 合唱班
- 長野県長野高等学校 バトン班
- 長野県長野商業高等学校 チアリーディング部
- 長野県長野高等学校 ダンス班

コラボレーション
信州ブレイブウォリアーズ
サッカーJ3長野パルセイロ

晴れプロ第2弾 AC長野パルセイロの試合前会場でのパフォーマンス
参加クラブ募集中!

実施団体 高校生グループ(部活動、社会体育、習い事)
対象 吹奏楽、軽音楽、ダンス、演劇、合唱、チアリーディング、管弦楽、バトン
会場 長野Uスタジアム 1F 長野県総合体育館
期間 2021年4月～6月

主催 晴れプロ実行委員会 協力 第十八回長野県打撃つり実行委員会 協賛 信州ブレイブウォリアーズ
後援 長野県 長野県教育委員会 長野市

お問い合わせ 晴れプロ実行委員会 ☎ hare.pj.55@gmail.com

休校措置やインターハイの中止、最悪時のオンライン化。目指す場所はどこだろう?
実際に私達の不気なを伝えたい!日々懸命に部活動に励む高校生らによる、
人に感動を届ける喜びや成果を届けたい!!

本気のパフォーマンス届けたい!!

長野県長野商業高等学校 チアリーディング部
× 信州ブレイブウォリアーズ
日時: 2021年 3/24(水) 18:00～20:00
場所: ホワイトリング

長野県長野高等学校 ダンス班
× 信州ブレイブウォリアーズ
日時: 2021年 3/31(水) 18:00～
場所: ホワイトリング

長野県長野商業高等学校 チアリーディング部
× 信州ブレイブウォリアーズ
日時: 2021年 3/24(水) 18:00～20:00
場所: ホワイトリング

長野県長野高等学校 バトン班
× 信州ブレイブウォリアーズ
日時: 2021年 3/24(水) 18:00～
場所: ホワイトリング

長野県長野商業高等学校 合唱班
× スプリングフェスタ
日時: 2021年 3/13(土) 18:00～19:00
場所: 長野県総合体育館

長野県長野商業高等学校 美術班
× ART
日時: 2021年 2/11(木・祝)～14(日)
場所: 県立中央図書館

お問い合わせ 晴れプロ実行委員会 ☎ hare.pj.55@gmail.com

県や長野県の新規コロナウイルス感染症の対応方針に則り、安心安全に準備・パフォーマンスできるイベントとします。

会場へお越しの皆さまへ
新型コロナウイルス対策の徹底
検温・消毒
マスク着用
37.5℃以上
発熱・咳・呼吸困難
体調不良
37.5℃以上
発熱・咳・呼吸困難
体調不良

最後に同世代やこれから高校生になる皆さんへメッセージをお願いします。

自分が楽しいなと思うことに取り組んだり、ワクワクする方向へ素直に行くと出てくるものが出てきます。しかし、これはなかなか難しいことで、ただ一步を踏み出してみれば良いといった易しいものではないことも、多くの活動が続けてきて、同世代の話を聞いてきて感じていることです。このような一人では踏み出せないけど、仲間がいれば踏み出せるといった人たちをそっとサポートするのが、フォースプレイスの「放課後の居場所」であると思っています。

「放課後の居場所」は立ち上げましたが、まだ目指していた形として運用できているかと言うとそうではありません。場所だけあってもやはり「来るきっかけ、がなければ来ません。今、私のイメージではきっかけの場をお菓子などが置いてある『駄菓子屋』のようなコミュニティスペースにしても良いと思っています。昔の子供たちは学校が終わると駄菓子屋に集まって、そこが自然と交流の場となっていたと聞きます。私たちがやっている地域へ出での活動やまちづくりは、「やりたい想い」という意味では、高校生の本分である勉強や部活動と何ら変わりはありません。勉強や部活以外の第3の軸として、夢中になれること、その夢中を仲間と共有できることをぜひ体験して欲しいです。どうですか？私たちと一緒に「やりたい」想いのきっかけを見つけて、一緒にその「やりたい」を実現してみませんか？

■高校生の居場所 Fourth Place

学校・学年を超えて高校生の自分だから出来ることを見つけよう！

メール：fourthplace.official@gmail.com

ご連絡お待ちしております。

※本稿は、南石堂町商店街振興組合「地域の論点」編纂事務局が2020年12月13日にインタビューした内容をまとめたものです。